



おごせ 教育 Pick Up

町では、これまで様々な教育施策に取り組んできました。これからも「子育てと教育の町越生町」にふさわしい事業を実施していきます。町民のみなさんに越生町の教育についてより身近に感じてもらうため、今月号から教育分野のコーナーを一括りにまとめた、『おごせ教育Pick Up』を総合タイトルとしてリニューアルしました。

5月号からは町内の小中学校の様子や町の行事等に参加する子どもたちの様子などを紹介する『おごせっ子広場(仮)』を新設します。越生町の充実した教育環境の中ですくすくと成長していく子どもたちの姿などを掲載していきます。

ズームイン教育228

平成28年度 学校教育プラン

越生町教育委員会

I 基本理念

「人を育て文化を育む
越生教育」

II 目指す子ども像

「知・徳・体」のバランスのとれた子どもたちの育成

(知) 確かな学力と自立する力を身に付けた子どもたち

(徳) 思いやりや感謝の心をもち、規律ある生活ができる子どもたち

(体) 健やかな体を育み、がんばり抜く子どもたち

III 重点目標

1. 越生町35人以下学級の実施
○35人以下の人数で、きめ細やかな指導を行います
2. 越生町小中一貫教育の推進
○小学校1年生から中学校3年生まで、系統性のある教育を推進します
3. 2学期制の継続
○年間の授業時間を確保し、季節にあつた時間を編成します
4. 土曜授業の継続
○月1回(年9回)の土曜授業を実施します

1. 確かな学力と自立する力を身に付けた子どもたち(知)
2. 基礎・基本の徹底を図り、学力向上を目指します
3. 体験活動を重視し、自立する力を育成します
4. 全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査で学力を検証します

IV 越生町が目指す「知・徳・体」の基本計画

1. 小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した授業計画をもとに指導します
 2. 思いやりと感謝の心をもち規律ある生活ができる子どもたち(徳)
 3. 健やかな体を育み、がんばり抜く子どもたち(体)
- 3時間を有効に使い、授業時間を確保します
- 実施日は小・中学校同じ日です
- 業を実施します
- 業を推進し、豊かな心を育成します
- (3) いじめ、不登校ゼロを目指し、豊かな心を育成します
- (4) 越生町「3つのあ」の実績調査で生活面を検証していきます
- 平成27・28年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業・理科(越生小学校)
- 平成28年度越生町教育委員会研究委嘱・理科(梅園小学校)
- 平成28年度入間北部教育委員会連絡協議会委嘱・全教科等(越生中学校)

V 小中学校の研究委嘱





越生浪漫

No.87

法風寺の寺宝4点が
埼玉県指定文化財に

平成28年3月15日付で、法恩寺に伝わる「金銅装説相箱及び戒体箱」（有形文化財・工芸品）が新たに埼玉県指定文化財に指定されました。

説相箱三口と戒体箱一合はいずれも十五世紀頃の作品と推定されます。4点とも木箱で、金銅製の板や彫金金具で装飾されています。うち3点は、底板に紀年銘があることから製作年代が判明しています。また、銘に名前のみえる二人の僧は、法恩寺中興開山の榮曇、中興四世である頼曇です。

説相箱とは、法会に用いる法具や次第書きなどを納めたり、説教のときに台本（説草）を入れる箱です。戒体箱は、灌頂と呼ばれる密教儀式の時誓約である三昧耶戒の式文を

納める箱です。現在は埼玉県立歴史と民俗の博物館に寄託されており、いずれも伝来の経緯が明らかでない寺宝として、埼玉県内では珍しい中世の工芸品に指定されることになりました。



説相箱 ①：銘「文明拾六年十一月」33.4×30.6×10.6cm、説相箱②：銘「文明十六年十二月」29.5×27.2×8.9cm



戒体箱：銘「頼曇」「文明十八年二月」33.6×9.4×9.1cm 裏面

説相箱③：銘「榮曇」33.2×30.4×10.3cm

ミヤマセセリは年に一回だけ、早春の訪れとともに出現する、羽を開くと3〜4cmの小型で茶色の地味なチョウです。このチョウは実に不思議な生活を送ります。すなわち、初夏に孵化した幼虫は雑木林を構成するクヌギやコナラなどのブナ科の植物の葉を食べながら一年をかけてゆっくりと成長し、冬には、樹上の枯葉の中で幼虫の状態で潜みまします。そして、春の早い時期に枯葉とともに地上に落下して蛹になり、蛹の中で大変身をして成虫になります◆北海道、本州、四国、九州に分布し、南西諸島には生息しません。国外では中国、アムール、朝鮮半島に分布します◆埼玉県内の丘陵地では、1960年代にはどこにでも生息

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.47

ミヤマセセリ

「チョウ目 セセリチョウ科」

していましたが、1970年以降は急速に減少して、大宮台地から東の地域で絶滅種となつていきます。雑木林に最も多く生育するコナラを餌としているのにもかかわらず、この小さなチョウが絶滅してしまった事実は、実に不思議です◆越生町の雑木林では、本種が広く分布します。4月上旬〜中旬頃の晴れた日、ニユーサンピア裏山の尾根筋でのこと。日当たりの良い地上に止まり、人が近づくと素早く地上を飛び、再び元の場所に戻って止まる姿を見て、春を感じたことがあります。小型で目立ちませんが、町の各地で見られるこのチョウを見つけてみてはいかがでしょうか。（阿部 功）



▶早春の日を浴びるミヤマセセリ

